

◆ ルネサンス高等学校(私立)

○受講生徒:普通科 34名

○使用時間:2コマ(60分、25分)

○充当教科:スクーリング

○授業のねらい:・導入・映像教材の視聴により社会保障制度の基礎を理解する  
 ・グループワークを通して、身近な生活に関わる社会保障制度を実感する

○使用教材:①映像教材

②理念やあり方ワークシート

③身近な社会保障ワークシート

④10個の「10分間講座」

⑤ルネサンス高校版オリジナル教材(教材②③を基に作成)

【1限目】

展開	内容	使用教材
20分	<p>・「もしも」の経済的負担について教員自身の体験や統計資料からイメージする。教員のアキレス腱断裂の経験を例に、急な出費の経済的負担の大きさを実感する。</p> <p>・「これから」の経済的負担について統計資料からイメージする。統計に基づく老後の最低生活費を例に、老後の生活費の負担の大きさを実感する。</p> <p>・今回授業の課題である「あなたの『もしも』と『これから』は大丈夫？」を提示する。生徒が「大丈夫」と思うか、「不安」と思うか問いかけて挙手させる。</p> <p>・「もしも」や「これから」の負担を軽減するためにわが国にはどのような制度があるかを問いかけ、「社会保障」の答えを導き出す。</p>	オリジナル教材 P1～5
8分	<p>・「10個の「10分間講座」」を用いて、社会保障に関連するクイズにより、わが国の状況と社会保障の基礎知識を知る。</p>	10個の「10分間講座」
30分	<p>・映像教材の視聴                      ※機材のトラブルにより放映まで5分程度かかった。</p>	映像教材

【2限目】

展開	内容	使用教材
15分	・「就職後の生活と社会保障」について話し合いをする。 ・各グループの代表者に回答と対処策について発表させる。	オリジナル教材 P13～16 ※グループワーク
4分	・わが国の社会保障制度の負担状況について説明する。国際比較においてはそれほど国民負担率は「高く」はないことを解説する。	オリジナル教材 P19～20
4分	・「社会保障はだれが負担するのか？」について、アメリカ型、スウェーデン型、日本型の違いを解説した上で生徒同志のグループワークで検討する。 ・各グループの代表者に検討結果について、挙手により発表させる。	オリジナル教材 P21～22 ※グループワーク
2分	・「保険」の持つ意味について確認し、まとめの話をする。 ・アンケートに記入させる。	オリジナル教材 P23～24

(参考)授業を担当した教師や受託会社の授業後の感想(「地域社会保障推進事業実施報告書」より)

効果的だったと思われる点	<p>○授業の導入で、教諭が脚を怪我した自身の体験談を挿入したことにより、生徒の意見としても「きちんと払わないと自分が大変な事になってしまう」や「改めて重要さを認識した」といった声があり、生徒の関心を高める効果があったと思われる。</p> <p>○導入で老後の生活にかかる生活費についても具体例(金額)を示しながら、問題提起をし、生徒の関心をひきつけた。</p> <p>○授業の最初の段階で、「あなたの『もしも』と『これから』は大丈夫？」というテーマ設定を明示することで、健康保険や公的年金の必要性・重要性を考える上で適切な「動機付け」がなされていたと思われる。アンケートでも、「あらためて重要さを認識した」や「もっと勉強しなければならない」といった声があり、生徒に社会保障制度を強く印象付けることに成功したと思われる。</p>
問題点等	<p>○途中でDVDの視聴において、機械トラブルが発生し、授業が5分程度停滞してしまう場面があった。その結果、時間が押してしまい、グループワークの時間が十分に取れなくなってしまった。グループワークについては、「あまり意味がない」という生徒の声もあったが、「他の人の意見が聞けて良かった」というものもあり、もう少し時間が取ればより効果的な授業になったと思われる。</p> <p>○カリキュラム自体もボリュームが多すぎたと思われる。</p>